

7

体育授業を核とした 体力向上の推進



現状と課題

- 本市の子供たちの体力は、小学生、中学生のそれぞれにおいて、低下傾向にあります。このことは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、学校における体育的行事を含めた体力向上に対する取組が減少していることなどが要因の一つと考えられます。また、子供の生活全体から日常的な身体活動が減少しており、運動をする子供としない子供の二極化の傾向も指摘されています。
- 本市では、特に小学校において「運動・スポーツが好き」「やや好き」と感じている児童の割合が、全国平均と比較して低い傾向となっています。
- 生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフを実現するためには、全ての子供が運動に関わる学校体育の機会を大切にすること、特に体育授業を改善していくことで、「運動好きな」児童生徒を育成するとともに、体力向上を図ることが大切です。

主な取組

▶ 体育授業の充実

- ① 資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できる学習過程を工夫し、運動の楽しさや喜びを味わえる授業を実践します。
- ② 児童生徒が、一人一人の能力・適性等に応じた課題を持つことができるよう、課題解決に必要な学習の場を充実させるとともに、児童生徒の発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容の明確化と体系化を図り、指導計画や学習過程を工夫します。

▶ 児童生徒の体力の向上

- ① 「上尾市児童生徒体力向上推進委員会」を定期開催し、運動量を確保した体育授業の実施に向けた工夫や、子供たちの実態に即した体力向上に係る効果的な取組等について検討します。
- ② 各小・中学校において、新体カテスト結果の丁寧な分析・考察を行い、体力向上に向けたきめ細かな指導の実践につなげます。また「体力プロフィールシート」の活用を通して、児童生徒一人一人の「体力向上目標値」を設定します。
- ③ 体カテストの結果を小学校段階から毎年度継続して本人・保護者・学校が共有し、活用することにより、児童生徒一人一人の成長を支え、一人一人の体力が確実に伸びる教育に取り組みます。

8

学校保健の充実



現状と課題

- 健康の保持増進に必要な知識や技能を習得させ、生涯にわたって自らの健康を適切に管理していく思考力・判断力などを育てる必要があります。
- 日常の健康観察、定期健康診断、学校感染症の予防や学校環境衛生検査の適正な実施と事後措置を通して、児童生徒の健康の保持・増進を図る必要があります。
- アレルギー疾患、メンタルヘルス、感染症などの現代的な健康課題を解決するため、学校・家庭・地域の医療機関等の連携による保健管理の推進が必要です。

主な取組

▶保健教育の推進

- ① 現代的な健康課題に系統的・計画的に対応できるよう、各学校が学校保健計画を作成し、家庭や関係機関と連携して学校保健の充実を図ります。
- ② メンタルヘルスやアレルギー疾患など児童生徒の現代的な健康課題への対応について、それぞれの発達段階に応じて系統的に指導するとともに、学校・家庭・地域の医療機関等が連携して取り組みを進めます。
- ③ 妊娠・出産・不妊に関する正しい知識の普及啓発や性感染症の予防・啓発を図るなど、児童生徒の心と体のバランスに配慮した性に関する指導を進めます。また、大麻などの麻薬、危険ドラッグ等の乱用薬物に関する最新の情報等を教育内容に取り入れるとともに、養護教諭や学校保健担当者への研修の実施等、薬物乱用防止に向けた取組を進めます。

▶保健管理の推進

- ① 定期的健康診断や日常の健康観察を適正に実施し、疾病の早期発見治療により、児童生徒の健康の保持増進を図ります。また、未受診者等の受診の機会を確保できるような取組を進めていきます。
- ② 歯科保健活動の充実に加え、小・中学校におけるフッ化物洗口を実施し、むし歯の発生を予防します。
- ③ 学校環境衛生検査を定期的に実施し、学校環境衛生の保持・改善を図ります。
- ④ 食物アレルギー事故防止のために、上尾市学校給食食物アレルギー対応方針の徹底を図ります。

▶学校保健組織活動の推進

- ① 家庭や地域の関係機関との連携を図るため、学校保健委員会を通して、児童生徒の健康課題解決のための校内協力体制を強化します。

9

食育の推進・
学校給食の充実

現状と課題

- 子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、食育推進体制を整備して取り組むことが大切です。
- 学校における食育推進の生きた教材として、学校給食の意義が見直されています。学校給食が、成長期にある児童生徒の健康の保持・増進と体力向上を助け、また、家庭における望ましい食生活のモデルとなることが期待されています。
- 学校給食衛生管理基準に基づいた、「安全・安心」な学校給食の実施が必要です。また、調理従事者への衛生管理指導の徹底、学校給食施設の整備と適正な管理が必要です。
- 本市では、令和7(2025)年4月に「第3次上尾市健康増進計画・食育推進計画」を策定し、市民が生涯にわたり健康でいきいきと暮らすための環境づくりを目指すとともに、生活習慣病対策や食育などへの取組を強化していくこととしています。

主な取組

▶食に関する指導の充実

- ① 「第3次上尾市健康増進計画・食育推進計画」を踏まえ、学校給食を通して、食生活の改善や健康増進が図られるよう、食育推進体制の確立や食に関する指導の充実に努めます。
- ② 食に関する知識や能力等を身に付けるために、各学校の特色を生かした体験活動を取り入れるなど、家庭・地域と連携した食に関する指導の取組の工夫・改善を図ります。
- ③ 教育活動全体を通して全教職員で取り組む校内協力体制を整備するとともに、栄養教諭などの専門性を生かした指導の充実に努めます。

▶学校給食の充実

- ① 郷土食や行事食などの伝統的な食文化を継承し、また、世界の料理で多様な食文化を伝えるとともに、栄養バランスのとれた魅力ある学校給食を目指し、献立の工夫・改善を図ります。
- ② 学校給食を「生きた教材」とし、より一層の地場産物の活用や米飯給食の充実に努めるとともに、食に対する理解・関心を高めます。

▶学校給食の衛生管理の徹底

- ① 衛生管理の徹底を図るため、給食室の施設・設備の適正管理を行います。
- ② 給食業務における事故防止及び衛生管理の徹底を図るため、給食調理員や学校給食関係職員を対象とした研修の充実に努めます。

目標3 健やかな体の育成 に対する指標

※現状値は令和6(2024)年時点、目標値は令和12(2030)年時点です。

指標		体育主任等研修会の実施	
指標の定義	上尾市立小・中学校の体育主任等を対象とした、体育授業等の指導に関する研修会の実施回数。		
選定理由	本市の児童生徒の体力は、小学生、中学生のそれぞれにおいて、低下傾向にあり、体育授業を核とした体力向上について、教員の指導力を向上させることが必要であるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小・中学校	2回	2回を維持	全ての小・中学校の体育主任等に対して、継続した研修を実施し、各学校における体育授業等の質の向上を目指して目標値を設定。

指標		体育・保健体育の授業を楽しいと感じる児童生徒の割合	
指標の定義	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の質問紙調査において、体育・保健体育の授業を「楽しい」「やや楽しい」と回答する児童生徒の割合。		
選定理由	体育授業の質を高め、「運動好きな」児童生徒を育成することが必要であるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小学校 (5学年)	92.5%	95.0%	全ての小・中学校における体育授業を改善していくことで、「運動好きな」児童生徒を育成するとともに、体力向上を図ることを目指して目標値を設定。
中学校 (2学年)	85.2%	90.0%	

指標		歯科健診の受診率	
指標の定義	定期健康診断(歯科)を受診した児童生徒の割合。		
選定理由	健康診断の集計・分析などから小・中学校の実態に即した歯・口の健康づくりの実践を推進するため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小学校	81.9%	85.0%	児童生徒が健康課題を残したまま放置されることのないよう適切に対応するとともに、不登校児童生徒等の受診機会を確保する未受診者健診の取組を通じた受診率の向上を目指して、目標値を設定。
中学校	85.8%	89.0%	

指標		栄養教諭の年間平均授業実施回数	
指標の定義	各校の栄養教諭が年間で授業を実施した回数の平均。		
選定理由	児童生徒が食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、食育推進体制を整えることが重要であるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小学校	67.6 回	70 回	学校において食育に積極的に取り組んでいくことを目指して、目標値を設定。
中学校	68.5 回	70 回	

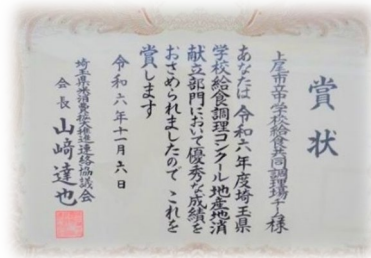
《中学校給食共同調理場の様子》



(写真1・2)
にんじんとたまねぎの下ごしらえ



(写真3・4)調理と片付け



(写真5・6)献立と表彰状

令和6年度学校給食調理コンクール
(地産地消献立部門)で、『埼玉県
米消費拡大推進連絡協議会会長賞』
を受賞しました。

献立(白飯、牛乳、ゼリーフライ、
炒り鶏、のらぼう菜のみそ汁)